

筑波大学オープンイノベーションシンポジウム

2024年1月23日 火 13:00-17:15

会場 コンgressクエア日本橋ホールA・B
東京都中央区日本橋1-3-13 東京建物日本橋ビル2階

サステナブルな社会の創造
カーボンニュートラル社会に向けて
Creating a Sustainable Society: Toward a Carbon Neutral Society

参加費 無料

ハイブリッド開催 ※要事前申込み
会場のみ個別相談会を併設します。
申込先から事前にお申し込みください。

基調講演

経営に求められる複眼視角

～カーボンニュートラル社会に向けて～

筑波大学 ビジネスサイエンス系 教授

平井 孝志

筑波大発フュージョン
エネルギーへの挑戦

筑波大学 数理物質系 教授/プラズマ研究センター センター長

坂本 瑞樹

講演

脱炭素実現モデル街区構築に向けた活動

筑波大学 システム情報系 教授

石田 政義

カーボンニュートラルに挑む新材料開発

筑波大学 数理物質系 教授/ゼロCO₂エミッション機能性
材料開発研究センター センター長

近藤 剛弘

モビリティと連携する脱炭素地域エネルギー
システムを探る

筑波大学 システム情報系 教授

安芸 裕久

活動紹介

筑波大学が推進する社会の共創

筑波大学 副理事(財務活動計画担当、事業開発推進担当)

大森 勝

申込先

URLまたはQRコードからお申し込みください

申込締切: 2024年1月21日(日)

* 定員になり次第、受付終了

<https://oiso.tsukuba.ac.jp/blog/archives/1125.html>

主催・お問合せ

筑波大学国際産学連携本部

オープンイノベーション国際戦略機構

TEL:029-859-1492

E-mail:oi-sanren@un.tsukuba.ac.jp



TIMETABLE

開会の挨拶

13:00

筑波大学 副学長・理事（産学連携担当）
国際産学連携本部 本部長/オープンイノベーション国際戦略機構 機構長
金保 安則

基調講演

13:10



経営に求められる複眼視角

～カーボンニュートラル社会に向けて～

筑波大学 ビジネスサイエンス系 教授

平井 孝志

VUCAと呼ばれる変動の時代。非連続な環境変化への迅速な適応は、企業経営や新規事業開発において避けては通れない重要な経営課題です。本講演では歴史上の非連続な変革の事例〈蒸気船の誕生〉を取り上げて、そのプロセスから示唆を得ながら、カーボンニュートラル社会に突き進む現代において特に重要となるビジネスエコシステムやダイナミック・ケイパビリティ等の複眼的かつ新しい経営視角をご紹介します。

13:55



筑波大発フュージョンエネルギーへの挑戦

筑波大学 数理工学系 教授/プラズマ研究センター センター長

坂本 瑞樹

2050年カーボンニュートラルを受けて、次世代クリーンエネルギーであるフュージョンエネルギーへの期待が高まり、内閣府では「フュージョンエネルギー・イノベーション戦略」が策定されています。本学では、これまで世界最大のタンデムミラー型プラズマ閉じ込め装置を用いてプラズマ核融合の基礎研究を行い、ここで得られた知見を基に、日本大学と共同ベンチャーとして核融合スタートアップを立ち上げ、核融合炉の小型化・高度化を目指した革新的な閉じ込め方式の開発に着手することとなりました。今後の期待や目指す姿をご紹介します。

14:40

休憩

講演

15:00



脱炭素実現モデル街区構築に向けた活動

筑波大学 システム情報系 教授

石田 政義

2050年カーボンニュートラル宣言を受け、具体的な社会実装を主眼としたプラットフォーム創造を企画検討しています。短期/広域での実効性を求める立場から、単に技術革新に依存するのではなく、既存要素技術を再編成することで全体としての達成を目指します。また、常にオープンでアップデート型とすることを標榜しています。以上を中心に、自身の研究開発動向や経験に基づく現状での思想を織り交ぜてご紹介します。

15:35



カーボンニュートラルに挑む新材料開発

筑波大学 数理工学系 教授/ゼロCO₂エミッション機能性材料開発研究センター センター長

近藤 剛弘

カーボンニュートラルを実現するためには、水素の利活用を高効率に行うための材料開発や二酸化炭素の転換を低コストで実現する高性能触媒の開発が必要不可欠です。本講演では、本学の取組みとホウ化水素や硫化ホウ素といったオリジナリティが高い新材料のポテンシャルをご紹介します。

16:10



モビリティと連携する脱炭素地域エネルギーシステムを探る

筑波大学 システム情報系 教授

安芸 裕久

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、脱炭素エネルギー確保など供給側については様々な検討がなされていますが、需要側である地域エネルギーシステムについては議論が十分なされていません。将来の地域エネルギーシステムを考える上で、再生可能エネルギーの普及と並んで電動車の普及を考慮することは重要です。本講演では、中長期的な車両電動化の進展や、充電インフラの整備やVehicle-to-Grid(V2G)に代表される電力系統との連携を考慮した地域エネルギーシステムのあり方について、様々なシナリオを想定しご紹介します。

活動紹介

16:45

筑波大学が推進する社会の共創

筑波大学 副理事（財務活動計画担当、事業開発推進担当）

大森 勝

閉会の挨拶

17:00

筑波大学 国際産学連携本部 オープンイノベーション国際戦略機構 統括クリエイティブマネージャー
宮元 慎一

17:15～

ネットワーキング(会場のみ)